

特集 総合リハビリテーションセンター

リハビリテーション支援ロボット
ウェルウォーク 導入



目次

- P2 当院のリハビリテーションセンターについて
- P3 地域医療連携について
- P3 リハビリテーションスタッフ
- P4～P5 リハビリテーション支援ロボット WelWalk
- P6 訪問リハビリテーション
- P6 通所リハビリテーション

輝山会記念病院のホームページをリニューアルしました

よりわかりやすく、知りたい情報を探すことができるようになりました。
外来・入院案内はもちろんのこと、各施設の様子や新棟アネックスの情報も
最新のものに更新され、内容も充実しています。
スマートフォンでも快適にご覧いただけますので、是非一度ご覧ください！

輝山会記念病院

検索 



当院のリハビリテーションセンターについて

リハビリテーション部門統括部長 清水 康裕



2018年3月に長野県企画振興部総合政策課から報告された長野県の総人口は、2000（平成12）年の221万5千人をピークに減少へ転じ、当面は急激な減少が続くとされていました。さらに生産年齢人口の減少が続き、高齢人口の割合（高齢化率）は全国を上回って30%に達しています。

しかしながらこの高齢者の方々は、平均寿命は延伸し、男女ともに全国トップクラス。就業率は3割程度の推移をみせ全国1位を維持しており、長野県の高齢者は「働くこと」に対して意欲が非常に高いという結果が出ています。

我々は、このような高齢者高就業地域で医療に携わらせて頂き、リハビリテーションという分野を担っています。

リハビリテーションという分野はユニークです。

医療には、脳・心臓などの臓器別分野（〇〇内科、〇〇外科など）がありますが、リハビリテーションはそれら全てを網羅する医療分野です。リハビリテーション科は、『生活を診る』、『障害を診る』ことのできる医療集団です。療法士と呼ばれる理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）は専門の大学・専門学校を卒業して資格を得ます。看護師、介護福祉士、看護補助者（ワーカー）は常に病棟生活に関わっていることから、生活を診るスペシャリストです。さらに医療ソーシャルワーカー（MSW）、管理栄養士なども加わり、それぞれのプロフェSSIONALが集まってチームを形成しています。

このリーダーはリハビリテーション科の医師なのですが、全国82の医学部でリハビリテーション医学講座があるのは20の大学、リハビリの診察においては、〇〇外科、脳〇〇科の医師が兼任しているのが現状であり、リハビリテーション科の医師の育成には課題があります。医師不足の診療科というと、産婦人科、小児科、麻酔科がすぐに思い当たるかもしれませんが、実はリハビリテーション科も医師が不足している診療科の一つです。

しかし当院には、リハビリテーション専門医が常勤医として2名（共に指導医も兼任）、さらに非常勤医師も2名在籍しています。常勤2名の医師がチームリーダーとして臨床に関与しています。

現在当院のリハビリテーション部門は、急性期、回復期、維持期・生活期に介入できるよう人員配置を行っており、療法士はPT51名、OT32名、ST6名の合計93名が在籍しています。彼らは日々自己研鑽を積み重ね、勤務をしながら大学院を卒業した修士が2名、学会が認定する専門スタッフが10数名在籍し、ケアマネジャーの資格も9名が取得しています。臨床家として、患者様、利用者様に質の高いリハビリテーションを提供するための努力の結果です。

また、学会での発表も年間10数名が行なっています。発表は我々の行う臨床が全国的にみてどうか評価でき、全国の同業者と意見交換をし、さらに上のリハビリテーションを知るための重要な機会であり、新たな一意奮闘を始める場でもあります。

高齢社会のトップランナーである当地域で、都会に出なくても良いリハビリテーションを提供できるよう、これから来る高齢社会の医療機関の先陣として足跡を残していきたいとおもっています。

地域医療連携について

総合リハビリテーションセンター長 加藤 譲司



輝山会記念病院を中心とする飯田メディカルヒルズ（IMH）は、急性期、回復期、生活期とすべての面でリハビリ機能を持っています。特に回復期を担う回復期リハビリ病棟は100床あり、約70%以上の患者さんが他病院から紹介されて転院しリハビリ入院を行っています。回復期リハビリ病棟に入る条件として、脳卒中や脊椎・大腿骨・骨盤などの骨折、肺炎や手術後の廃用症候群などありますが、常に他の病院とのスムーズな連携が必要です。

当地域では急性期病院から回復期リハビリ病棟へ移動するのに、脳卒中地域連携パス、大腿骨近位部骨折連携パスという連携パスがあります。地域連携パスとは、一つの地域で急性期病院から回復期病院を経て早期に自宅に帰れるように病気を発症したときから診療計画を作成し、治療を受ける全ての医療機関で共有して用いるものをいいます。診療にあたる複数の医療機関が、役割分担を含め、あらかじめ診療内容を患者さんに提示・説明することにより、患者さんが安心して医療を受けることができるようにするものです。

急性期病院の連携先として、脳卒中では飯田市立病院と瀬口脳神経外科病院、大腿骨では飯田市立病院と飯田病院との連携を結んでいます。状態が回復して退院時については、元のかかりつけの医療機関へ入院中の経過、問題点など紹介を行っています。多くの医療機関、介護福祉機関と連携して、患者さんたちが安心して生活に戻れるように支援しています。

リハビリテーションスタッフ

入院から在宅生活にかけてすべての分野にリハビリテーションスタッフを配置し、患者様の社会復帰を支援しています。また質の高いリハビリテーションが提供できるようリハビリテーションスタッフの教育システムの導入や、多くの資格取得者が在籍しています。

リハビリ医師

- 常勤 2名
臨床認定医・専門医・指導医
日本摂食嚥下リハビリ学会認定士
技師装具等適合判定医
- 非常勤 2名
臨床認定医・専門医・指導医
日本摂食嚥下リハビリ学会認定士

スタッフ数

- 理学療法士 51名
- 作業療法士 32名
- 言語視覚士 6名

資格取得者

介護支援専門員	9名
回復期セラピストマネジャー	2名
3学会合同呼吸認定療法士	6名
日本摂食嚥下リハビリ学会認定士	6名
福祉住環境コーディネーター 2級・3級	10名
認知症ライフパートナー 2級・3級	5名

リハビリテーション支援ロボット WelWalk

総合リハビリテーションセンター 理学療法士 田中 康夫



WelWalk（ウェルウォーク）は、歩行訓練を補助する目的で、トヨタ自動車と藤田医科大学が共同開発したリハビリテーション支援ロボットです。当院では平成31年2月より運用を開始しています。

足の曲げ伸ばしをアシストしてくれるロボット脚を装着し、療法士と一緒に歩行訓練を行うことができます。療法士の声掛けに加え、モニターの画像や音声を利用し患者様自身に歩行を意識してもらいながら訓練を行うことができます。適応は片足の運動機能障害がある方となっておりますが、医師が判断致しますのでお気軽にお問合せいただければと思います。



脚免荷ハーネス
ロボット脚本体の重量をキャンセルします。麻痺脚の持ち上げを助け、振出しをアシストします。

操作パネル
タッチパネルからシステムを一括操作できます。練習データをリアルタイムに表示します。

転倒防止ハーネスまたは、体幹支持ハーネス
転倒を防止し、安全な練習を提供します。必要に応じて、部分体重免荷が可能です。

正面モニタ
歩行中の映像を患者様に提示します。
①足元カメラ
②前面カメラ
③側面カメラ
3方向からの映像を録画・再生できます。

トレッドミル
約6cmの低床設計です。運動負荷装置の一つで、回転するベルトの上を歩行する道具です。

ロボット脚本体
脚正業モータで膝の屈曲、伸展をアシストします。立脚時は伸展をモータアシストするので安心して荷重することができます。遊脚時はタイミングよく膝が屈曲するので楽に振り出すことができます。また、シンプルな構造なので装着が簡単です。

機能性と安全性、操作性を備えたりハビリテーション支援



歩行映像録画機能

歩行中の映像を録画することができるため、練習中や練習後に自身の歩行の様子を見ていただくことができます。



歩行指標モニター機能

歩行中の膝の角度や荷重変化などをリアルタイムで表示します。

入院から退院まで、患者様の状態に応じたりハビリテーションを提供



練習初期

体幹支持ハーネスなどを使用し、重度麻痺の患者様でも初期から歩行練習が可能です。

練習中期～後期

患者様の回復に応じて、補助する力を調整することで、適切な難易度での練習が可能です。より良い歩行を意識しながら歩くことができます。

装具での練習

歩行が自立された患者様はトレッドミルのみでの歩行が可能です。映像録画機能などを活用し、より自然な歩行を目指します。

出典：TOYOTA Partner robot ホームページ
(<http://www.toyota.co.jp/robotics/welwalk/>)

訪問リハビリテーション

訪問看護ステーション 理学療法士 原 由美子



当院の訪問リハビリは、訪問看護ステーションと介護老人保健施設 万年青苑から行っています。理学療法士5名、作業療法士1名が在籍し、言語聴覚士が兼務で訪問業務を行っています。新棟アネックス棟に訪問看護師・ケアマネジャーと共用の事務所があり、お互いに情報交換しながら訪問業務に従事しています。また、病院内リハビリテーションセンターのスタッフとの連携により、退院時のスムーズな在宅生活への移行を支援させていただいています。訪問リハビリは、医師の指示の下、介護保険または医療保険を利用し、利用される方の状況に応じて月2回から週1～2回程度訪問しています。訪問に伺う地域は、飯田市・下條村・喬木村などで、最も遠い南信濃へは片道1時間弱かかります。退院・退所時から、長期自宅生活を行っている方まで様々な方からご依頼をいただいています。ご利用を希望される方は、ケアマネジャーまたは、かかりつけの医療機関にご相談ください。



通所リハビリテーション

介護老人保健施設 万年青苑 理学療法士 牧野 祐樹



介護老人保健施設 万年青苑の通所リハビリテーション（デイケア）では、老年期の疾病（脳梗塞や骨折など）を原因とした諸機能の低下をもちながら在宅生活を送る方々に対して、リハビリ専門職が実施する機能訓練と個々の能力に合わせて日常的に行われる生活機能訓練をそれぞれの計画に基づき提供しています。

その他にも看護師による健康チェック、楽しみや清潔保持のための入浴支援、他者との関わり合いや脳トレ要素を含むレクリエーション・作業活動を提供しています。また、通所リハビリテーションの役割として、社会的孤立や引きこもり等の心理的な問題や家族の介護負担等の社会的な問題を解消し、住み慣れた地域で生き生きと明るく自分らしい生活を送ることができるようサポートを行います。そのためには、その人を取り巻く環境、日々の活動、家庭内の役割など多面的なサポートが重要であり、私たち万年青苑スタッフが一丸となって安全に安心した在宅生活を送れるように支援していきます。



保健・医療・福祉を
三位一体とする飯田メディカルヒルズ (I.M.H)

